

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度 第3回 高松市行財政改革推進委員会
開催日時	令和元年8月22日(木) 9時30分～11時30分
開催場所	高松市役所 11階 114会議室
議 題	令和元年度高松市外部評価（第1日目） (1) 災害援護事業 (2) 障がい者スポーツ推進事業
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	石川委員、肥塚委員、後藤委員、近藤委員、竹内委員、角田委員、奈良委員、人見委員
傍 聴 者	1 人 (定員 20 人)
担当課及び連絡先	人事課行政改革推進室 839-2160

審議経過及び審議結果

令和元年度高松市外部評価（第1日目）

(1) 災害援護事業

判定結果 改善

評価の意図

民間サービスとの連携や電子申請の導入など、申請方法の多様化を検討してはどうか。また、避難支援者確保などの課題解決のために、市は、先進地区のモデルケースの情報を各コミュニティ協議会に提供するなど、地域力の向上に向けての支援をする必要がある。

その他の意見等

- ・名簿登録者を増やすために、SNSやホームページからの電子申請を可能とするなど、申請方法を多様化し、気軽に登録できるようにしてはどうか。
- ・課題としている『真に登録が必要な方の把握』、『要支援者の多い地域での制度維持』を解決するために、県や他の自治体と情報を共有する必要がある。
- ・支援が必要な方を把握するために、地域の方と信頼関係のある民生委員や自治会長の協力は不可欠である。
- ・支援が必要な方に登録してもらえよう、例えば郵便局の”みまもりサービス”利用者に対し、制度の周知を図るなど、アプローチの方法を広げてみてはどうか。
- ・登録者が増えても、避難支援者を確保できなければ、実質助けられず名簿は役に立たない。行政が、先進地区のモデルケースを基に、避難支援者確保のためのマニュアルを作成してはどうか。各地域で避難支援者を振り分けるよう取り組んではどうか。
- ・ご近所付き合いが希薄になってきている時代だが、災害時こそ地域のつながりが大切だという意識を高めていく必要がある。

(2) 障がい者スポーツ推進事業

判定結果 継続

評価の意図

障がい者のスポーツ人口の増加や競技力の向上を図るために、今後においても健常者の視点だけでなく、障がい者の視点に立った事業内容を推進してほしい。そして、競技者人口のみならず、指導者などの競技者を支える応援者人口の増加につなげてほしい。

その他の意見等

- ・障がい者が先天性か後天性か、また、障がいの程度により、スポーツ経験値や身体的能力に違いがあるため、パラリンピックを基準にした障がい者スポーツの推進は、ハードルが高く感じる。共生社会の実現を目指すためには、様々な障がい者の視点に立つことも必要である。
- ・競技者人口を増やすことに加え、その競技の応援者（指導者や審判など）人口を増やすことも求められる。